

国際保健医療福祉学分野

論文

A 欧文

A-a

1. Cui L, Taira Y, Matsuo M, Orita M, Yamada Y, Takamura N: Environmental Remediation of the difficult-to-return zone in Tomioka Town, Fukushima Prefecture. *Sci Rep.* 10(1): 10165, 2020 doi: 10.1038/s41598-020-66726-y. (IF: 3.998)
2. Taira Y, Matsuo M, Yamaguchi T, Yamada Y, Orita M, Takamura N: Radiocesium levels in contaminated forests has remained stable, even after heavy rains due to typhoons and localized downpours. *Sci Rep.* 10(1): 19215, 2020 doi: 10.1038/s41598-020-75857-1. (IF: 3.998)
3. Matsukawa K, Arimura T, Orita M, Kondo H, Chuman I, Ogino T, Taira Y, Kudo T, Takamura N: Health-related quality of life in Japanese patients with prostate cancer following proton beam therapy: an institutional cohort study. *Jpn J Clin Oncol* 50(5): 519-527, 2020 doi: 10.1093/jjco/hyaa027. (IF: 3.019)
4. Shimizu Y, Yamanashi H, Noguchi Y, Koyamatsu J, Higashi M, Fukui S, Kawashiri SY, Arima K, Takamura N, Maeda T: Insulin-Like Growth Factor-1 (IGF-1) and Reduced Tongue Pressure in Relation to Atherosclerosis Among Community-Dwelling Elderly Japanese Men: A Cross-Sectional Study. *Dysphagia* 35(6): 948-954, 2020 doi: 10.1007/s00455-020-10096-0. (IF: 2.519)
5. Yamada Y, Orita M, Matsunaga H, Yamaguchi T, Taira Y, Takamura N: Risk perception regarding implementation of iodine thyroid blocking during a nuclear disaster of mothers living near a nuclear power station in Japan. *Endocr J* 68(5): 553-560, 2020 doi: 10.1507/endocrj.EJ20-0627. (IF: 1.952)
6. Matsunaga H, Orita M, Taira Y, Kudo T, Kondo H, Yamashita S, Takamura N: Intention to return in residents of Tomioka, Fukushima Prefecture, Japan stratified by sex after the accident at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station. *Prehosp Disaster Med* 35(2): 235-236, 2020 doi: 10.1017/S1049023X20000254. (IF: 1.315)
7. Hori H, Orita M, Taira Y, Matsunaga H, Kudo T, Takamura N: Factors affecting anxiety among administrative officers working within the urgent protective action planning zone of a nuclear power station. *PLoS One* 15(8): e0236997., 2020 doi: 10.1371/journal.pone. (IF: 2.87)
8. Orita M, Taira Y, Matsunaga H, Maeda M, Takamura N: Quality of Life and Intention to Return among Former Residents of Tomioka Town, Fukushima Prefecture 9 Years after the Fukushima Daiichi Nuclear Accident. *Int. J. Environ. Res. Public Health* 17(18): 6625, 2020 doi: 10.3390/ijerph17186625. (IF: 3.39)
9. Cui L, Orita M, Taira Y, Takamura N: Radiocesium concentrations in mushrooms collected in Kawauchi Village five to eight years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. *PLoS One* 15(9): e0239296, 2020 doi: 10.1371/journal.pone.0239296. (IF: 3.24)
10. Orita M, Mori K, Taira Y, Yamada Y, Maeda M, Takamura N: Psychological health status among former residents of Tomioka, Fukushima Prefecture and their intention to return 8 years after the disaster at Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *Journal of Neural Transmission* 127(11): 1449-1454, 2020 doi: 10.1007/s00702-020-02160-8. (IF: 3.575)
11. Cui L, Orita M, Taira Y, Takamura N: Radiocesium concentrations in wild boars captured within 20 km of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *Scientific Reports* 10(1): 9272, 2020 doi: 10.1038/s41598-020-66362-6. (IF: 3.998)

B 邦文

B-e

1. 深野 颯, 平良 文亨, 折田 真紀子, 山田 裕美子, 井出 寿一, 若松 津美, 滝沢 宜之, 高村 昇: 福島県富岡町内で採取した食品による内部被ばく線量評価. *広島医学* 第60回原子爆弾後障害研究会特集号 73(4): 237-239, 2020
2. 福本 泰啓, 井本 光信, 平城 翔太, 深野 颯, 稲富 雄大, 平良 文亨, 折田 真紀子, 山田 裕美子, 若松 津美, 高村 昇: 福島県富岡町における避難指示解除後の外部被ばく線量評価. *広島医学* 第60回原子爆弾後障害研究会特集号) 73(4): 240-242, 2020
3. 金堂 円太郎, 折田 真紀子, 高橋 純平, シャルシャコーワ タマラ, 平良 文亨, 高村 昇: チェルノブイリ原発事故後のゴメリ州に住む医学生放射線健康リスク認知と生活の質. *広島医学* 第60回原子爆弾後障害研究会特集号 73(4): 277-279, 2020
4. 松永 妃都美: 自主避難を継続する母親が福島第一原発の事故で拡散した放射性物質に対してもつ認識. *日本看護研究学会雑誌* 43(5): 815-822, 2020

学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
0	0	0	0	0	8

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
高村 昇・教授	長崎市国民保護協議会 委員	長崎市国民保護協議会
高村 昇・教授	支援センター運営委員会 委員	公益財団法人 原子力安全研究協会
高村 昇・教授	福島県放射線健康リスク管理アドバイザー	福島県
高村 昇・教授	非常勤嘱託	アルパイン株式会社
高村 昇・教授	建築審査会委員	長崎県
高村 昇・教授	(財)放射線影響研究所 臨床研究部顧問	公益財団法人 放射線影響研究所
高村 昇・教授	環境放射能研究所研究連携推進会議委員	国立大学法人福島大学
高村 昇・教授	環境放射能研究所 副所長	国立大学法人福島大学
高村 昇・教授	環境再生プラザ運営委員会委員	環境再生プラザ
高村 昇・教授	福島県「放射線と健康」アドバイザー	福島県
高村 昇・教授	臨床研究部 顧問	公益財団法人 放射線影響研究所
高村 昇・教授	風評払拭・リスコミ強化アドバイザー 会合外部有識者委員	復興庁
高村 昇・教授	中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術 開発戦略検討会委員	環境省
高村 昇・教授	中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術 開発戦略検討会コミュニケーション推進 チーム 委員	環境省
高村 昇・教授	雲南市原子力安全顧問	島根県雲南市
高村 昇・教授	研修推進会議委員 他	公益社団法人 日本アイソトープ協会
高村 昇・教授	安定ヨウ素剤の服用等に関する検討チーム 委員	原子力規制庁
折田真紀子・助教	内部被ばく技術検討会委員	公益財団法人 原子力安全研究協会
折田真紀子・助教	外部被ばく技術検討委員	公益財団法人 原子力安全研究協会
折田真紀子・助教	トレーナーズトレーニングの講師	公益社団法人 日本アイソトープ協会
折田真紀子・助教	学会誌編集委員会委員	公益社団法人長崎県看護協会

競争的研究資金獲得状況（共同研究を含む）

氏名・職	資金提供元/共同研究先	代表・分担	研究題目
高村 昇・教授	日本学術振興会	代表	国際共同研究強化 (B) 「チェルノブイリから福島を知る～甲状腺超 音波所見の自然史」
高村 昇・教授	環境省	代表	「放射線健康管理・健康不安対策事業（放射 線の健康影響に係る研究調査事業）」
高村 昇・教授	環境省	代表	「富岡町を基盤とした帰還住民とのコミュニ ケーションに資する科学的エビデンスの創 出」
山田裕美子・助教	日本学術振興会	代表	薩摩川内市に住む住民の安定ヨウ素剤に関す るリスク認知とそれに影響する要因の検討
折田真紀子・助教	上原記念生命科学財団	代表	福島県川内村における食材中の放射性物質濃 度のデータベース化と住民のリスク認知評価

松永妃都美・助教	日本学術振興会	代表	科学研究費助成事業 基盤研究(B)「放射線防護リスクコミュニケーション現任教員モデルの検証」
----------	---------	----	--

その他

非常勤講師

氏名・職	職(担当科目)	関係機関名
松永妃都美・助教	非常勤講師(災害看護学)	佐賀大学医学部
高村 昇・教授	非常勤講師(福島原発事故と災害復興)	東日本国際大学
折田真紀子・助教	災害医療	国際医療福祉大学

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	長崎大学が新年度「東日本大震災・原子力災害伝承館」で開催予定のセミナーについて紹介された。	長崎新聞	2020年3月11日	長崎大学は新年度から、福島県双葉町に今夏開館する「東日本大震災・原子力災害伝承館」を活用し、災害や被ばく医療の現場で活躍できる人材の育成のため、セミナーを開催する予定。災害・被ばく医療の講義のほか、福島県沿岸部での放射性物質測定実習や、参加者によるグループ討論などを予定している。
高村 昇・教授	震災と原発事故の発生から9年を迎え、長崎新聞社の取材を受け福島支援の課題や展望を伝えた。	長崎新聞	2020年3月11日	震災と原発事故から9年、今後はそれぞれの復興フェーズにあわせた復興支援が必要。長崎大学と福島県立医科大学の共同大学院の成果と課題、被災地長崎の長年の取り組みを基に具体例や展望を伝えた。
高村 昇・教授	長崎大学発行の「放射線・放射性物質Q&A」第五巻を富岡町及び大熊町に寄贈した。	福島民報	2020年3月18日	3月17日に「放射線・放射性物質Q&A」第五巻の贈呈式が各町役場で行われ、町長に冊子を手渡した。贈呈数は富岡町が8千部、大熊町が5千部、町内全世帯に配布予定。
高村 昇・教授	長崎大学より、「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長に就任することが発表された。	長崎新聞	2020年4月1日	長崎大学は、開館予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長に就任することを発表し、就任にあたり長崎新聞社の取材を受けた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長に就任することが発表された。	福島民報	2020年4月1日	福島イノベーション・コースト構想推進機構が、開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長に就任することを発表した。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長に就任することが発表された。	福島民友	2020年4月1日	福島イノベーション・コースト構想推進機構が、開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長に就任することを発表した。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長に就任することが発表された。	河北新聞	2020年4月1日	福島イノベーション・コースト構想推進機構が、開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長に就任することを発表した。

高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長として、新聞社のインタビューを受けた。	福島民友	2020年4月14日	福島県が、双葉町に開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長として、福島民友新聞社のインタビューを受け、抱負を述べた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」館長として新聞社のインタビューを受けた。	福島民報	2020年4月14日	福島県が、双葉町に開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長として、福島民報新聞社のインタビューを受け、抱負を述べた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」館長として新聞社の取材を受けた。	朝日新聞	2020年5月23日	福島県が、双葉町に開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の館長として、朝日新聞社の取材を受け、抱負を述べた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長として財界ふくしまより取材を受けた。	財界ふくしま7月号	2020年7月1日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」が双葉町に開所。被災に関する多くの資料や映像を収集保存し後世に伝える拠点施設。初代館長として取材を受け、復興支援活動と功績について伝えた。
高村 昇・教授	長崎大学が長年取り組んできた、放射線医療の研究成果や被災地復興・核兵器廃絶に向けた取り組みを紹介。	長崎新聞	2020年7月16日	長崎大学原爆後障害医療研究所の教授として、長年にわたる被ばく医療研究の成果がチェルノブイリや福島復興支援の基礎になっている等伝えた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」館長として就任あいさつのため福島民報社を訪問し社長と懇談。同日県庁で知事と懇談。	福島民報	2020年7月18日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の館長として就任あいさつのため、福島民報社を訪問し、社長と懇談した。同日県庁にて知事と懇談。抱負を述べた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長として新聞社の取材を受けた。	福島民友	2020年7月18日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長として福島民友新聞社の取材を受け、「福島の人たちがやってきた復興の証しを示す」と抱負を述べた。
高村 昇・教授	エネルギーレビュー8月号に特集で記事が掲載された。	エネルギーレビュー8月号	2020年7月20日	チェルノブイリと福島第一の両原子力発電所事故、健康影響の観点における相違について、専門家として科学的知見を踏まえ詳しく意見を述べた。
高村 昇・教授	長崎大学が福島県大熊町と、包括連携協定を締結。	福島民報	2020年7月31日	長崎大学が、福島県大熊町と住民の帰還促進に向け、包括連携協定を締結した。締結式は町役場で行われ、活動内容を報道陣に説明した。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」開館にあたり、原子力文化に寄稿した。	原子力文化8月号	2020年8月1日	震災後10年あまりで蓄積された震災の記憶を国や世代を超えて伝えることが重要。福島の復興の証を次の世代に伝え経験を活かし国内外の人材を育成するために、学びに来た来訪者に十分な知識を提供したいと語った。

高村 昇・教授	復興支援オンラインセミナーにおいて、講義を行った。	長崎新聞	2020年9月9日	長崎大学が、東日本国際大、国立福島大、福島県立医科大と連携し、災害・被災者医療や復興に携わる人材を育成する復興支援オンラインセミナーにおいて、講義を行った。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」開館し、新聞社の取材を受けた。	福島民友	2020年9月10日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の開館にあたり福島民友新聞社の取材を受け、施設の意義等について伝えた。震災と原発事故が発生し、福島が復興してきた9年半を振り返る場になるよう、展示資料や映像に加え風化防止のため語り部の講話を設けたことを紹介した。
高村 昇・教授	川内村コミュニティセンターで、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興をテーマにオンラインセミナーを開催し、講演した。	福島民報	2020年9月12日	長崎大学原爆後障害医療研究所の企画とし、東日本国際大、福島大、福島医大と連携して開催。県内外の大学生約60人が参加。災害や被災者医療・復興学などをテーマに講演やグループディスカッションなどを行った。講演では村の復興の現状や課題をわかりやすく伝えた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」開館し、新聞社の取材を受けた。	福島民友	2020年9月20日	震災・原発事故から10年を迎えようとしている中で、「東日本大震災・原子力災害伝承館」が開館。震災と原発事故を振り返る場になるよう努めていくとし、資料を展示するだけでなく、語り部の講話を取り入れ、風化防止という大きなテーマがあると伝えた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」が開館し、新聞社の取材を受けた。	福島民報	2020年9月21日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の開館初日に福島民報社の取材を受け、「世界中の人が福島県の複合災害を『自分事』として捉えられるような施設にしたい」と意気込み等を語った。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」が開館し、新聞社の取材を受けた。	日本経済新聞	2020年9月21日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」が開館し取材を受けた。館内では地域の日常から原発事故直後の状況、長期化する避難や復興に向けた取り組みを時系列で紹介する。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長として新聞社の取材を受けた。	長崎新聞	2020年9月26日	2011年の原発事故以降の復興支援活動や100回以上の講演をしたことや、功績と復興活動が紹介された。福島県が実績と人柄を評価し館長にオファーしたとのこと。
高村 昇・教授	菅首相が「東日本大震災・原子力災害伝承館」を視察。	福島民友	2020年9月27日	菅首相が双葉未来学園を訪問し、復興へのエールを送った。その後、東日本大震災・原子力災害伝承館を視察。館長として案内し、首相は原発事故後の苦難と再生の道のりに理解を深めた。
高村 昇・教授	同上	福島民報	2020年9月27日	同上

高村 昇・教授	菅首相が「東日本大震災・原子力災害伝承館」を視察	長崎新聞	2020年9月27日	菅首相が9月26日、東日本大震災の被災地を視察するため福島県を訪問。福島第一原発を車中や高台から視察し、原発事故を後世に伝える「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学。
高村 昇・教授	環境放射能学セミナーが「東日本大震災・原子力災害伝承館」で開催。	福島民報	2020年10月4日	福島大環境放射能研究所の環境放射能学セミナーが、「東日本大震災・原子力災害伝承館」を会場とし開催。初日に「放射線被ばくと甲状腺」の題で講演し、チェルノブイリ原発周辺地域での医療支援や福島第一原発事故の被災地における復興支援について紹介した。
高村 昇・教授	環境放射能学セミナーが「東日本大震災・原子力災害伝承館」で開催。	福島民友	2020年10月4日	福島大環境放射能研究所の環境放射能学セミナーが、「東日本大震災・原子力災害伝承館」を会場とし開催され、環境放射能研究と廃炉支援技術研究の最前線について紹介した。
高村 昇・教授	長崎大学が大熊町民を対象に放射線・健康をテーマとした交流集会を開催。	福島民報	2020年10月5日	放射線や健康をテーマとした交流集会。長崎大学原爆後障害医療研究所教授として、医師や放射線専門家の立場で講演。同研究所の松永助教が健康相談に乗る。
高村 昇・教授	福島大の学生らが東日本大震災・原子力災害伝承館を見学。	長崎新聞	2020年10月5日	福島大の学生らが「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学。館長として館内を案内し、学生は原発事故の記憶や復興について学んだ。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長として新聞社の取材を受けた。	岩手日報	2020年10月5日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長に福島県のオファーにより就任したとし、これまでの道のりと功績が紹介された。
高村 昇・教授	長崎大学が東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興をテーマにセミナーを開催。	福島民報	2020年10月17日	長崎大学が川内村で復興セミナーを開催し、各国研究者らが参加。川内村や富岡町の住民や医療従事者が復興の現状について紹介し、村長が講話を行う。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」でウェブ中継による「防災・伝承セミナー」を開催。	福島民報	2020年10月25日	一般財団法人「3・11伝承ロード推進機構」が、「東日本大震災・原子力災害伝承館」でウェブ中継による「防災・伝承セミナー」を開催。パネルディスカッションや基調講演を通し、事故の教訓をどう継承していくか考えた。館長としてパネリストを務め、伝承館を取り上げ施設を生かした伝承の重要性を伝えた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」「双葉町産業交流センター」「県復興祈念公園」の合同開所式に出席し、トークセッションを行った。	福島民友	2020年11月8日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」「双葉町産業交流センター」「県復興祈念公園」の合同開所式に出席しトークセッションを行った。伝承館は震災と原発事故の記憶と教訓を後世に伝える県の記録施設として9月20日に開館。

高村 昇・教授	修学旅行で福島県を訪れる県立長崎南高校生に対し、講演を行った。	朝日新聞	2020年12月23日	修学旅行で福島県を訪れる県立長崎南高校の生徒に対し、放射線医療の専門家として復興支援活動について講演を行った。
高村 昇・教授	長崎大学が川内村の復興支援動画を作成し紹介	福島民報	2020年12月30日	長崎大学が川内村で原発事故発生直後から取り組んでいる復興支援について動画を作成し、インターネットの動画投稿サイトユーチューブで公開。川内村は原発事故で一時全村避難した。2012年1月の帰村宣言を前に、村長より村の放射線量測定を依頼され、放射線被ばくに詳しい長崎大のスタッフが村内で住民の健康相談等に応じてきた。
高村 昇・教授	あぶくま信用金庫が静岡県の沼津信金職員らとともに伝承館を視察し、復興の現状に理解を深めた。	福島民報	2020年12月30日	相双地域のガイドブックを製作したあぶくま信用金庫が静岡県の沼津信金職員らとともに伝承館を視察し、復興の現状に理解を深めた。

学術賞受賞

氏名・職	賞 の 名 称	授与機関名	授賞理由、研究内容等
松永妃都美・助教	優秀論文賞	日本地域看護学会	乳幼児を養育していた母親が福島第一原子力発電所事故の放射線被ばく回避を目的として自主避難を実行するまでのプロセス